令和６年度　学校評価表

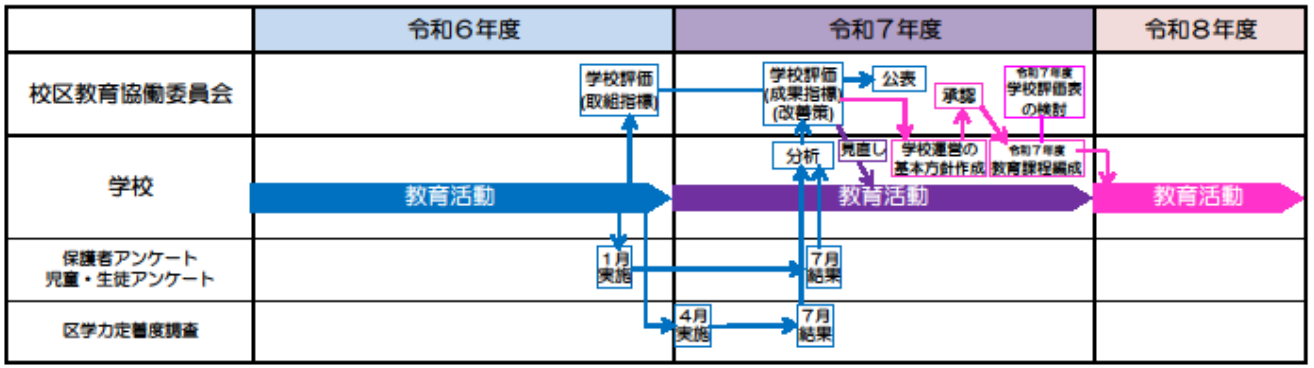
品川区立荏原第六中学校	校長	稲葉	慶太
荏原第六中学校校区教育協働委員会	委員長	油布	佐和子

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年３月２４日 教育長決定 要綱第５号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

(1) 学力に関すること。
(2) 人間性や社会性に関すること。
(3) 体力・健康に関すること。
(4) いじめ防止の取組に関すること。
(5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。
学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和６年度の学校評価が令和７年度および令和８年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和６年度　学校評価　品川区立品川区立荏原第六中学校

評価項目１　学力に関すること

重点目標		品川区立学校教育要領に基づき、各教科の年間指導計画を進める。 1. 基礎・基本的事項を習得し、指導学習規律を身に付けさせ、UDを意識した分かる授業を進め基礎学力の定着を図る。 2. 言語活動の充実や思考力・表現力・判断力の育成を図り、発展的な内容まで指導を行う。 3. 授業力・指導力の向上のため、教材・教具（iPadなど）を活用など、授業の工夫に努める。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	区の学力定着度調査で全教科で平均正答率が昨年度より上回るようにする。	平均正答率は9年生は昨年度より上回っているが、8年生は目標達成に至らなかった。特に理科・社会について標準スコアよりも前回以上に下回る結果となっている。	C	9年生の成功事例などを教員間で指導方法を共有し、学年間の連携強化と個別指導の充実を図る。また効果的な復習方法を検討し、単元毎の定期的な学力の確認と継続的な改善サイクルの確立をしていく。
	既習事項を繰り返し学習することで、基礎的・基本的事項の定着を図る。	各教科において、既習事項を時間に応じて授業前後で復習を行っているが、定着は一部の教科にとどまってる。	B	
②	指導形態、教材、板書の工夫、iPadの活用など授業改善を図る。	多くの教科で授業改善を目指し、iPadの利活用が進んでいる状況である。生徒についてもICT機器活用ができると意識できてる。	B	タブレット端末を用いた生徒間での協働学習やプレゼンテーションスキルの向上につなげる授業を展開するなど、生徒自ら主体的な学習調整を促進できるよう授業力向上を目指す。ICT活用の質を高め、より効果的な学習環境を構築していく。
	ユニバーサルデザインを意識し、だれにもわかる授業を目指す。	授業の中で、タブレット端末を活用し、黒板だけでなく画像や動画によって視覚的な配慮を行っている。	B	
	学習規律を守らせ、意見交換を活発にさせ、主体的に授業に取り組ませる。	授業最初に年間通しての学習の見通しや授業の流れ、評価方法の説明を徹底することで、学習規律は守られている。	B	
③	自学ノートを活用したり、学習の機会に参加するなど家庭学習の習慣を身に付けさせる。	学校全体で自学ノートの活用を勧め、自主的な家庭学習に取り組む生徒が一定数いる状況である。特に9年生は習慣化している。	B	自学ノートの提出率だけでなく、秀でた内容を例として紹介することで、生徒のモチベーションを高め、自主性を育成していく。また、地域人材や指導員などの活用の中で、学習グループ作りなど提供し、柔軟な学習支援を実現する。
	学年の発達段階に合わせて、宿題や自習学習などの課題を与え、家庭学習の習慣を図る。	宿題が加重にならないよう授業で意識し、自習学習の時間を確保し、主体的な学習週間を促している。	B	
	品川未来塾を活用し、指導員に質問するなど、学習の機会を与える。	各定期考査までに、メディアルームで地域人材を活用し指導員を入れ、学習する場所を提供している。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立品川区立荏原第六中学校

評価項目２　人間性や社会性に関すること

重点目標		目指す児童・生徒像を共有して市民科の学習や生活指導にあたる。 1. 小中で確認した学習規律・生活規律をもとに確かな学習指導と生活指導を進める。 2. 7～9年は「自治的活動」「人間関係」「企画・表現」の能力の伸長を重点とする。 3. 市民科一貫プランでは、社会に主体的にかかわり、自らの生き方を確立しようとする態度を育成する。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	生徒全員がしっかり挨拶ができる。マナーやルール等の規範意識の醸成を図る。	校外での体験活動などで規範意識をもって行動できている。社会を明るくする運動などの場面では多くの生徒が意識して挨拶を心がけている。	A	校内での挨拶運動を継続し、一部の生徒だけでなく日常的に挨拶ができる生徒を増やしていく。社会や環境の変化に対応しながらも、変えていく理由を明確にすることで生徒が自分自身のことと置き換え考えさせる場を引き続き提供してく。
	挨拶や礼儀、場に応じた行動などをしっかりと指導していく。また、生徒が主体的に作ったきまりが守られているか振り返らせる。	昨年度の学校のきまり、特に服装について生徒が主体的に見直しを図り、その後の生徒アンケートを実施、概ね良好との評価となった。	B	
②	市民科一貫プランでは、社会に主体的にかかわり、自らの生き方を確立しようとする生徒を育成する。	国の学力状況調査「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の項目で「当てはまる」の回答が全国より10%高い状況となった。	B	地域貢献への意欲を活かし、地域の方と何ができるかを考え、生徒主導のプロジェクトを立ち上げる。「ファイナンスパーク」や「CAPS」の学びを他教科の中でも振り返り学習を深化させる。茶道体験や防災授業をより包括的な体験学習プログラムを構築することで、生徒の社会参画意識と実践力を更に高めていく。
	市民科授業を計画的に実施し、ワークシート等を活用していくなかで生徒の習得状況を把握する。	体験活動「ファイナンスパーク」や「CAPS」を実施し、自ら習得状況を把握するための振り返る時間を取っている。	B	
	地域から学ぶ、生き方を学ぶなどをテーマとした授業の開発を行う。	地域の外部指導員による茶道体験は一貫教育の一つとして3年間継続し実施できた。他に防災授業への体験活動を始めている。	B	
③	キャリア教育を充実させ、主体的に進路選択をしていこうとする姿勢を育成する。	国の学力状況調査「将来の夢や目標を持つこと」の項目で肯定的な回答が全国より1割程度低い状況となった。	B	地域から職業観を学ぶ市民科授業「寺子屋」をさらに深化させ、具体的な将来像を描きやすくする工夫をしていく。定期的な振り返りと目標設定の機会を設け、フィードバックを行いながら、キャリアパスポートをさらに活用していく。
	市民科以外の教科の授業においても将来について考える機会をつくる。	理科など授業では身近な自然現象や新しい技術を話題に出すなど、社会とのつながりを意識させる工夫をしている。	B	
	キャリア・パスポートを活用して、生徒自身の学習状況の自己評価やキャリア形成の見通しをもたせる。	定期考査の学習状況を振り返ったワークシートなど、キャリアパスポートに入れ、いつでも振り返ることができている。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立品川区立荏原第六中学校

評価項目３　体力・健康に関すること

重点目標		生涯に渡って、運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに体力の向上を図る。 「心身ともにたくましい子」を育てる。 1. 体力の向上を図るとともに、健康教育にも取り組ませる。 2. 毎年のブラインドサッカーの体験の経験を生かして、ボランティアマインドを実践し、オリンピック・パラリンピック精神を継承していく。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	東京都統一体力テストの「体力・運動能力」の項目すべてで、都の平均値を上回る。	都の体力テスト「握力」「長座体前屈」の2項目以外で都の平均を上回ったが、全項目達成とはならなかった。	B	体育の授業では、継続してウォーミングアップを行う中で、ストレッチを重点とした準備体操を組み込むなど、安全面を考慮して柔軟性や握力の強化に焦点をあて、全体的な体力向上に努める。
	体育の授業では持久走を計画的に取り組む。体育の授業の最初でランニングなど持久力を向上させる種目を行う。	体育の授業のウォーミングアップで、準備体操やランニングを取り入れ、無理なく運動できるよう調整している。	B	
②	健康教育に取組み、基本的な生活習慣の定着を図る。	国の学習状況調査の生活習慣の項目では全国水準をわずかに上回る状況となった。	B	学校医や専門家との連携を強化し、より実践的な健康教育を実施する。また、家庭との協力体制を構築し、学校での取り組みを家庭生活にも反映させることで、生徒の健康意識と自己管理能力の向上を図っていく。生徒の主体的な参加を促すため、健康に関する健康増進キャンペーンの企画などを試みたい。
	保健指導や食育の指導を通して心身の成長や健康の保持・増進に努める。	保健体育の授業や食育指導、各委員会で呼びかけや取り組みなどで、生徒たちへの健康の保持増進を図っている。	B	
	外部人材を招いて、「薬育」「がん教育」を行い、自己管理能力を高まる。	薬物乱用防止教室を実施し、健康に関する自己管理能力を高めたが、外部講師を招き「がん教育」を実施した。	B	
③	スポーツにおいて、多様性理解を図り、共生を意識した取り組みをする。	区の生徒アンケート「様々な立場や文化をもつ人とコミュニケーションを取りたい」の項目で肯定的な回答85%で区よりも10%高い状況となった。	B	ブラインドサッカー応援校として継続的にパラスポーツ体験を実施し、障がい者アスリートとの交流を促進する。また、防災訓練に生徒が主体的に参加し、地域と連携した実践的な共助活動の場を設け、実践的なコミュニケーション機会を提供する。これらを通して生徒の多様性理解と社会参画意識を醸成していく。
	ブラインドサッカー体験を実施し、オリンピック・パラリンピック精神について考えさせる。	ブラインドサッカー体験を通して、誰でも運動を楽しむことができることを学び、多様性について意識が向上した。	B	
	市民科を活用し、共生社会についての内容に触れ考えさせる。	市民科で防災教育、社会の一員として今何ができるかについて触れ、特に共助への関心を高めることができている。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立品川区立荏原第六中学校

評価項目４　いじめの防止の取組に関すること

重点目標		いじめはどの生徒にも、どの学校でも起こり得るという認識の下、保護者、地域住民および関係機関等と日頃より連携を図り、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を基本として、全教職員が一丸となって取り組む。 1. 人権教育を推進し、問題の未然防止に努める。 2. いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に対応する。 3. 教育委員会、関係諸機関、家庭、地域と連携して対処する。		
評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	いじめが起こる雰囲気をつくらないようにし、未然防止・早期発見に努める。	いじめにおける早期発見、早期対応について、区の施策に基づき、教職員の研修を強化。いじめに関する授業を年3回以上実施した。	A	いじめの未然防止のため、人権教育を主体としたいじめ防止授業の実施する。教職員の研修を継続して共に、生徒が主体的に日頃から意識するよう校長講話や学年集会などで啓蒙していく。また、保護者や地域の協力体制を強く訴えていく。
	「いじめ根絶宣言」や「六中宣言」を常に意識させ、いじめのない学校を作る。また、毎日のアンケートなどや、日常の観察を怠らず実施する。	タブレットを活用しこころとからだの連絡帳「デイケン」を毎日実施、月1回のいじめDアンケート、年2回の学校風土調査を行い、生徒の小さな変化を見落とさないよう努めた。	A	
②	人権教育については、全教育活動において推進する。	人権意識の向上のため、教職員も継続して研修を行い、日頃から模範的に振る舞うことで、生徒への意識づけを後押ししている。	B	市民科の体験型学習の中で情報モラルや公共マナーを実践的に学ぶ場を提供するとともに、ロールプレイやケーススタディを通じて理論だけでなく実践的な人権意識を向上させる。また、人権標語・ポスターコンテストに積極的に参加し、効果的で持続可能な人権教育を実現していく。
	市民科でも人権の内容を取り上げ、人権尊重を考える機会をつくる。	市民科の授業の中で、情報モラルや公共マナーを身に付けるための学習を実施している。	B	
	人権の標語やポスターの作成し、人権尊重の意義について理解させる。	全校で人権の標語を作成、またポスターの作成を奨励するなど、人権尊重の意識を醸成している。	B	
③	市民科学習を通して、自己と他者を大切にする意識を育てる。	国の学習状況調査「自分と違う意見について考えるのは楽しい」項目で8割以上が肯定的な意見となった。	B	異なる意見を尊重する姿勢をさらに育むため、ディベートやグループディスカッションなどの対話的な授業を定期的に取り入れていく。「デイケン」の相談チェックは見過ごさず、必要に応じてスクールカウンセラーにつなげられるよう組織的に対応していく。体験学習の場を利用しながら、多様な状況下での適切な距離感を学ぶ機会を増やす。
	各種アンケートをもとに、自己と他者理解の状況を把握し、支援をする。	毎日実施のこころとからだの連絡帳「デイケン」で相談にチェックがある生徒には、可能な限りすぐに学年の教員が声をかける体制をつくっている。	B	
	自己と他者理解を通し、他人との程よい距離感を取れるようにして、支援をする。	宿泊学習や職場体験、マナー講習などで他人との距離感について、考え行動できるよう指導している。	B	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成

令和６年度　学校評価　品川区立荏原第六中学校

公開

評価項目５　（特色ある教育活動に関すること）

重点目標	連携グループ校で、品川区立学校教育の目標の達成を目指す取り組みを工夫する。 1. 学校便りにおいて、校長の経営方針や一貫教育の取り組みを積極的に家庭や地域に発信する。 2. 自主・自立の精神をふまえ、豊かな心をもち、たくましく生きる生徒の育成を目指して、教育を推進する。

評価指標	最上段：成果指標 2段目以降：取組指標	最上段：成果指標の達成状況の説明 2段目以降：取組指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
①	ボランティア活動を通して、ボランティアマインドの育成を図る。	区の生徒アンケート「ボランティア活動に参加している」項目で4割以上の肯定的な意見が見られた。	B	生徒主体の「ハートウォーミング」のボランティア活動の意義や成果が校内に広く周知され、その魅力を感じている生徒が少しずつ増えている。この活動の継続性を高めるため、参加者の体験談を共有するなど、定期的な振り返りと改善の機会を設けていく。
	ハートウォーミング六中を計画的に行い、積極的にボランティア活動（花いっぱい運動やあいさつ運動など）に参加させる。	生徒会本部が中心となり、ハートウォーミング六中を計画的に行い、多くの生徒を参加させた。	B	
②	生徒会活動や学級活動を通して、自主自立の精神を育てる。	国の学力状況調査「学級活動で話し合い互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」項目で9割以上が肯定的な意見となっている。	A	生徒の主体性をさらに高めるため、各行事等において企画段階から生徒を積極的に参加させ当事者意識を育み、生徒主導の話し合いや意思決定の機会を増やす。さらに、多くの生徒がリーダーシップを発揮できる環境を整えることで、学校全体で生徒の自主性と協働性を強化していく。
	学年行事や学校行事で、生徒の自治的活動する場面を設定し、達成感を味合わせる。	運動会や学習成果発表会、学年レクでは、生徒が自ら主体的に実践できる機会を増やすよう努めている。	B	
	学級活動などの特別活動において、教員が支援をしながら生徒だけで、課題を解決していこうとする意識を育てる。	校外学習や宿泊行事など、支援を入れながらも生徒が考え行動できるようリーダー育成に力を入れている。	B	
③	地域の人材を教育活動に活用したり、生徒が地域の行事に参加するなど、地域との関りを通し、連携を図る。	国の学習状況調査「地域や社会をよくするために何かをしたい」項目で75%以上の肯定的な意見が見られた。	B	地域との連携をさらに深め、地域防災など学習を通して生徒自身が地域の問題を発見し、解決策を考え、実行する機会を設ける。また、地域人材の活用を通して地域交流やボランティア活動の幅を広げ、多くの分野での活動を奨励するなど、生徒の社会貢献意識を高めていく。
	授業において授業の補助を担ってもらいながら、地域と学校の密な関係を作っていく。	茶道体験、裁縫や調理実習の補助、ファイナンスパークの補助など地域の協力を得ながら、教育活動を進めることができた。	B	
	生徒が地域のお祭り等の行事のボランティアに積極的に参加させ、地域とのつながりを持たせる。	区民まつり、ふるさとまつり、両社祭などに主体的にボランティア活動に参加し、地域から感謝されている。	A	

A＝十分達成できた　B＝おおむね達成できた　C＝未達成